

◇深澤 均 君

○議長（高橋 猛君） 次に、7番、深澤 均君の一般質問を許可いたします。深澤 均君、登壇願います。

（7番 深澤 均君 登壇）

○7番（深澤 均君） おはようございます。通告に従って質問をさせていただきます。

初めに、買い物弱者と乗り合いタクシーについてお尋ねをいたします。

近年、高齢による免許返納などで買い物が困難な、いわゆる買い物弱者の世帯が目立つようになってきています。経済産業省の調査によると、買い物弱者は全国で700万人いるとされ、なお増加傾向としています。買い物弱者とは500メートル以内に商店がなく、かつ車を持たない世帯をいうようであります。

美郷町においては、各地域にあった商店もめっきり減少し、車を持たない世帯のほとんどが買い物弱者となってしまっていますが、まずは町の実態をどのように認識してるのか伺います。

次に、厚生労働省が毎年行っている国民健康栄養調査報告によると70歳以上の1,007人を調査した結果、うち325人に低栄養の疑いがあり、しかも本人が気づいていないことが報告されているところであります。また、東北大学の調査チームが71歳以上の高齢者832人を3年間追跡調査したところ、要介護になったり亡くなるケースが低栄養の方が2.3倍高かったとしています。

このように高齢者を中心とした買い物弱者は、単に買い物アクセスにとどまらず、気軽に買い物に出かけられないことで、知らず知らずのうちに低栄養に陥って医療や介護へつながることが課題となっており、遅きに失しない対策が求められているところであります。

国では、こうした低栄養につながる買い物弱者を支えるため、3つの提案をして応援しています。1として身近に店（移動販売を含む）をつくること。2として家に商品を届けること。3として家から買い物に出かけやすくことであります。町では乗り合いタクシーの運行で買い物に出かけやすい環境をつくっていますが、1、2の町内での取り組みの現状はどうなっているのか伺います。また、2については町や商店などの事業者、地域の団体などと連携した取り組みが必要と考えますが、見解を伺います。

一方、乗り合いタクシー事業は利用者増や利便性の向上もあって平成29年度予算では1,000万円を超える事業費で買い物弱者にとってはなくてはならない存在になっています。現在は地区割りをして利用料金を設定していますが、千畑地域ではJ Aストア閉店以来、買い物弱者世帯では生鮮食料品は六郷または仙南地区へのスーパーまで行かざるを得ません。このような状況から地区タクシーの今後の方向性もあわせて見解を伺います。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

現在の美郷町の65歳以上の高齢者世帯は全世帯の15%を超え、増加傾向にあります。それに伴い、実態把握はしておりませんが、相対的に自家用車の運転が困難とされる世帯もふえてきているのではないかと考えてるところです。

一方、町内の小売り業者数ですが、商業統計調査によりますと美郷町が誕生した平成16年には293店舗あったものの直近の調査の平成26年では181店舗と10年間で112店舗、約38%減少しております。

そこで、議員ご質問の身近に移動販売を含む店をつくることについてですが、まず現状についてお伝えいたします。

現在町内では2業者が移動販売車で地域を巡回して小売りを実施し、交通弱者世帯等に対してサービス提供をしております。また、店舗等の新規創業については、平成27年度に起業者総合支援事業補助金制度を創設し、意欲のある企業者さんに支援策を講じてきており、現在まで8件の利用があるものの食料品については残念ながら関連する起業者がおらず、利用はゼロ件となっております。

2点目の家に商品を届けることについては、一丈木公園通り商店会やスーパーマーケット1店舗で宅配サービスを実施しているほか、コンビニエンスストア2店舗において区域限定ではありますが、宅配サービスを実施しております。さらには、農業協同組合のほか民間事業者も食材宅配サービスを行っており、一定程度の利用世帯がいらっしゃることを確認しております。また、町では商店街の活性化と魅力あるまちづくりに取り組む事業者等を対象に美郷町商店等にぎわい創出事業費補助金を制度化しておりますが、町内消費者に対する一層の利便性向上のための事業も補助対象であり、事業者と地域団体などが連携して自宅への配達等を実施する場合も対象となるところです。

なお、この制度の前身である美郷町事業所連携活性化事業費補助金では、さきに述べた一丈木公園通り商店会が平成23年度と平成24年度において既に店舗連携宅配サービスのPRにご活用いただいた実績もあるところです。

このほか、美郷町社会福祉協議会ではオタスケマン事業として有償で日常生活の困り事お割りを撤廃し、ひとしく食料品の買い物ができるよう統一料金にするべきと考えますが、乗り合い手伝いとして買い物代行を初めとした生活支援を行っており、平成28年度は120件の利

用があると伺っております。

このように民間事業者の主体的取り組み、そして新規創業を支援する町の支援制度、さらには福祉観点での取り組みなどが展開されている現状となっており、こうした多様な選択肢が存在している状況です。そのため、現段階においては、食料品等を入手するための新たな取り組みが必要な段階にはないものと認識しているところです。ご理解をお願いいたします。

続いて、乗り合いタクシーについてですが、現在美郷町地域公共交通網形成計画に基づき事業を展開していることは議員もご承知のところ、事業開始以来利用者ニーズを折に触れて受けとめ、可能な範囲で制度改正に努めてきたところです。こうした制度改正には行政サービスとしての妥当性等を踏まえながらバス事業者やタクシー事業者との長期にわたる意見調整を行い、最終的に美郷町地域公共交通活性化協議会で決定されてきたもので、各方面からの理解と協力によって現行制度が成り立っておりますことに、まずはご理解をお願いいたします。

議員ご提案の乗り合いタクシーの料金統一化についてですが、さきに述べましたとおり、食料品などの入手方法が基本的に深刻な状況ではないことに加え、各地区に食料品を扱っている商店並びにコンビニエンスストアなどが存在している状況においては、議員ご提案の趣旨で乗り合いタクシー料金を統一化するのであれば、見方を変えますとある種の利益誘導と捉えられる懸念も生ずるところです。したがって、議員ご提案の趣旨に基づく乗り合いタクシーの利用料金統一化は難しく、これまでの経緯などの踏まえ、制度内容は当面、現行を維持してまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

なお、乗り合いタクシーについては、今後も利用者ニーズを折に触れて受けとめるとともに社会環境の変化等踏まえた制度改正等はあることですので、加えてご理解をお願いいたします。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）7番、深澤 均君の再質問を許可します。

○7番（深澤 均君） 高齢者の買い物の困難な方がちょっと、御飯なりなんなりは食べてるんだけども偏ってしまっているというような、せんだってちょうどNHKの「ためしてガッテン」とかでちょっとタイムリーにそういう報道がされたけれども、食事はしてるんだけどタンパク質が不足してるとか、偏った食事になっているというような懸念が一番心配なところでして、その辺の回答がちょっと今不足してたのかなというふうな感じもして

ますので、もしかしたら課長さんでもいいですので、そこら辺の回答もできたらお願いしたいというふうに思っております。

それから、もうちょっと買い物弱者の世帯についてお話しておきたいんですけども、この世帯は確実に乗り合いタクシーを利用してしてくれてるんだらうと思う世帯が案外利用されていない実態もあります。それはなぜ利用しないかと聞きますと、やっぱり足腰が弱くて、そんなに歩けないわけではないんですけども、要支援にもなってない方が多いんですけども、停留所まで歩いていくのがつらいとか、やっぱり買い物した荷物を抱えて家に戻ってくるのがつらいとかというふうな理由で、じゃどうして買い物してるんですかという、タクシーを呼んで買い物する。それがやっぱり1週間に1回のもがタクシー料金かかりますんで10日に一遍とか半月に一遍とかというふうについついなくなってしまいうような実態もなかにはありますので、できればここは雪国でありますので、冬仕様っていいですか、乗り合いタクシーにも冬バージョンというものが、冬設定というものがあってもいいのではないかなというふうに思っております。その辺も含めて回答をお願いできればと思います。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いいたします。

○町長（松田知己君） ただいまの再質問にお答えいたします。ともに質問要旨にはありませんが、お答えいたします。

食事が偏ってる高齢者世帯の状況について、どうなんだという話しですが、基本的には栄養指導の観点ですので、栄養指導の実態には担当課長に後で答弁させます。

2点目の乗り合いタクシーの件ですが、基本的に乗り合いタクシーの制度設計の思想が玄関から玄関という制度設計思想でございませぬので、玄関から玄関という足の確保については、民間事業であるタクシー事業者に頑張ってもらうのが筋であろうと思います。

そういう基本認識のもとで冬季の新たな設定がどうかというご提案ですが、今現在既にこの制度がスタートして一定年数が経過しております。住民の中には、あるいは利用してる方々の中には一定程度の定着があるわけですので、それを変更するという事は、当然ですが、混乱が生ずることもあります。まして冬季と冬季以外の乗降所に違いがあるということは、混乱の原因をつくる元凶になりますので、現況においてはそうしたことは考えてはおりません。

なお、先ほどの答弁でも言いましたが、今後利用者のニーズを受けとめるという部分においてさまざまな変更はあるわけですが、現況において議員ご質問の冬の乗降所を変えるということは考えておらないことをご理解ください。

○議長（高橋 猛君） 福祉保健課長。

○福祉保健課長（高橋久也君） ただいま栄養状況についてということでご質問がありましたので、お答えいたします。

セルフケアの推進の中で運動それから食事それから休養ということで事業を進めております。この中で食事、栄養につきましては、各種研修の中でさまざま町民に啓蒙しまして実施していると同時に2年前からこのセルフケアの中でできるだけ栄養士保健師は各集落に入って栄養指導してくれということで実施しております。昨年は50集落以上各集落に入って保健指導プラス栄養指導というものを実施して、このセルフケアを推進しているところでございますが、その効果については、低栄養というふうな話がありますけれども、実際調査できていないという状況ではあります。このセルフケアの事業の中で進めていきたいというふうに考えておりますので、どうかご理解のほう、よろしく願いいたします。

○議長（高橋 猛君） 深澤議員、通告、丁寧に通告するようにしてください。（「はい」の声あり） 次の質問に入っていますか。（「はい」の声あり）

次の質問に入ります。

○7番（深澤 均君） 次の質問に入ります。中学生の提案についてであります。

昨年の12月8日、六郷史談会特別研修会が湧太郎ホールで開催され、「昔、美郷町にも戦争があった～戦後71年、初めて出会った戦争～」と題した中学生たちの研究発表がありました。内容は全校生徒へのアンケート調査から始まりました。町内で戦争に関わったことを知っていますかの問いに知っている生徒が7人、他の470人は全く知らないということで71年前の戦争体験は風化寸前であることが説明されました。そして7人の回答の中に明田地に六郷飛行場なるものがつくられていたことを知ったということで、ここまでは私も聞いたことがあります。

しかし、これから先は私にとっても初めて聞くことばかりでありました。生徒たちは六郷飛行場について、もっと知りたいということで地元の歴史を調べている六郷史談会のメンバーや当時小学校6年生で実際に建設作業に参加された方などから話を聞き、資料も見せてもらったそうであります。話の内容は、飛行機の離発着に障害があるということで上部を切りとられた松の木が存在していること。飛行場建設の中心は地域の小学5、6年生の2,000人程度であったこと。7月15日、完成間近の六郷飛行場が三陸沖米軍空母から発艦したと思われるグラマン戦闘機2機によって機銃掃射され、六郷国民学校の子供らが逃げまどったこと。その直後、六郷国民学校の子供らは全滅したとのうわさに親たちが泣きながら迎えにきた様

子。そして、そのときの銃弾が保存されていること。さらには、後三年駅付近でも走行中の汽車が爆撃され、通学途中の大農生ら3人が死亡したこと。銃弾が汽車の壁を打ち抜き、学生の中に命中したが、背負っていたカバンの中の分厚い教科書が命を救ってくれたこと。そのときの銃弾も今も大事に保管されていることなど、私にとっても初めて出会った戦争となり、すばらしい研修発表だったと思います。

そして、中学生たちは研修発表のまとめで町に2つの提案をしてくれています。通告書には要約して載せてありますが、ここでは全文を読み上げたいと思います。

提案の1つ目は町の歴史民俗資料館の展示についてです。六郷飛行場のこと、後三年空襲のことは資料館の展示では一切触れられていませんでした。もしそれが可能であれば高橋さんや久米さんが持っていた銃弾などを資料館に展示し、六郷飛行場のニュース映像をいつでも見られるようにするなどすればその地域と戦争とのかかわりをもっと多くの人に伝えていけるのではないのでしょうか。2つ目は案内看板の設置についてです。六郷飛行場のことを後世に伝えたい、そんな思いで小西家の松の前には案内看板が設置されました。六郷飛行場跡地や後三年駅付近にもこれと同じような案内看板を設置してはどうでしょうか。目立つ案内看板があるとないとは全然違います。それを見たことがきっかけで地域の歴史に興味を持つ人もいると思います。

この中学生の研修発表の内容は一心祭や大曲仙北社会科研究発表会でも発表され、多くの方々の関心を集めましたし、また町にとって貴重な提案であると私は思います。私はつらい過去の歴史ではありますが、後世に伝えることは町の役割と考え、中学生の提案を生かすべきと考えるが、町ではどのように受けとめたのか見解を伺います。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。教育長、登壇願います。

（教育長 福田世喜君 登壇）

○教育長（福田世喜君） ただいまのご質問にお答えいたします

昨年12月8日の美郷中学校生徒による「昔、美郷町にも戦争があった～戦後71年、初めて出会った戦争～」の研究発表については、直接聞くことはできませんでしたが、その後美郷中学校ホームページに公開されたことなどにより発表内容を知ることができました。その研究は生徒たちが文献を確認しながら体験者を訪問して実際に話を聞いたり、国の機関から取り寄せた原資料に直接触れたりするなどかなり踏み込んだ緻密な調査が行われており、新しい発見があり、非常に質の高い内容であったと思います。

戦争を知らない人々が大部分を占めるようになった昨今、町内においても戦争を実際に体

験された方々は少なくなってきました、そのお話を聞く機会もほとんどなくなっております。そのような状況において、町では戦争によって二度と悲惨な経験をしないように後世に戦争の記録を残し、伝えていくことが大事であると考え、美郷町歴史民俗資料館で戦争に関する実物の資料を展示してるところであります。また、町で平成27年3月に発行しました「美郷町の歴史」の本においても六郷飛行場跡地や後三年列車空襲など、太平洋戦争時における美郷町に関係する出来事を記述して紹介しております。

さて、ご質問のありました美郷中学校生徒による研究発表での2つの提案についてですが、その提案について直接要望はいただいておりますが、検討すべき課題として捉えてきたところでもあります。提案の1つ目の六郷飛行場跡地や後三年列車空襲に関するものを歴史民俗資料館に展示して戦争とのかかわりを、より多くの人に伝えてほしいということについてですが、今後は歴史民俗資料館で広く学習できるように資料を準備し、戦争を伝えている展示スペースで紹介することを検討してまいります。

2つ目の後世に伝えたいということで、それぞれに案内看板を設置してはどうかということについてですが、六郷飛行場跡地については今後も戦争の悲惨さをなるべく風化させずに後世に伝えていかなければならないとの考えから看板を設置する方向で検討していきたいと思っております。

一方、後三年列車空襲の看板設置については、その設置場所や設置後の管理面を考えた場合に難しい面がありますので、設置は見送りたいと考えております。

教育委員会では、今後も広く美郷町の歴史文化に触れる機会をつくっていくとともに図書館機能の充実や地域資料の調査収集について、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。以上であります。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）深澤 均君の再質問を許可します。

○7番（深澤 均君） 今の教育長さんのお答えですと検討していくというようなふうに解釈しましたがけれども、その中身はまだ、どのような方向でこうやっていくのかというのはまだ全然検討されていないということなのか、できれば私の要望もちょっとあれなんですけれども、当時米軍が航空写真を撮った写真も国土地理院から先生方が入手して当時の航空写真があったんですけれども、生徒の発表の中に、ああいうものを使って、できればジオラマみたいな感じで立体的に展示なども可能なのかなと。

あと、今回の中学生の発表は本当にすばらしい発表で、教育長さんもそういうふうに認識し

ておられますけども、この発表自体も非常に若い方々といいますか中学生の目線で捉えたあれですので、そこら辺の展示なども可能なものなのか、そこら辺もちょっと、感想でいいですからちょっとお答え願えればと思います。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。教育長、自席でお願いいたします。

○教育長（福田世喜君） ただいまの再質問にお答えいたします。

歴史民俗資料館の戦争に関する展示スペース部分、現在ある程度のスペースで展示しておりますが、そのスペースの一部をこの関係の展示で差し替えて展示することは可能じゃないかということは現在のところ判断しております。そうはいつでもそのスペースもある程度限られた中でこのような内容のどの資料をどのように展示するかということはいろんな角度から検討してこれから詰めていく必要がある内容だと思いますので、その辺のところは今の段階でははっきり申すことはできないということでありまして。それぞれの資料の展示をしていかどうかという著作権が絡んでくるようなものはまたその絡みもありますし、所有者等の資料についてはその方との協議という課題もありますので、その辺のところはまだ確定できない、いろんな検討余地があるところがあるのではっきりは述べることができない状況であります。

ただし、そういう展示スペースの中に今回の発表の内容を、発表で提案されてる内容を、コンパクトな中でもわかりやすく、そしてよく伝わるようにということはいろいろ工夫していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（高橋 猛君） これで、7番、深澤 均君の一般質問を終わります。